

PRESS
RELEASE

2019年1月
報道関係各位
プレスリリース



香雪美術館 企画展
四世梅若実襲名記念

「幽玄の世界への誘い^{いざな} 梅若六郎家所蔵の能面と能装束」

2019年2月26日（火）～5月6日（月・振替休日）

香雪美術館は、朝日新聞社の創業者である村山龍平^{りゅうへい}(1850～1933)の収集した日本と東アジアの古い時代の美術品を所蔵しています。当館では、所蔵品を「コレクション展」として公開するとともに、春と秋に日本美術などの作品を紹介する「企画展」を開催しています。

2019年の春季企画展は「幽玄の世界への誘い^{いざな} 梅若六郎家所蔵の能面と能装束」と題して、シテ方能楽師の梅若六郎家に伝来する能面、能装束を一堂に展示いたします。この展覧会は、五十六世梅若六郎玄祥師（1948～）が2018年に四世梅若実を襲名したことを機に企画されました。600年を超える芸能の系譜を伝える名門・梅若六郎家に伝来する貴重な作品約70点をご堪能ください。

四世梅若実^{みのる}（1948～）

観世流シテ方能楽師。1951年に能『鞍馬天狗』の子方にて初舞台。以後、景英^{かげ ふさ}、六之丞^{ろく の じょう}、紀彰^{とし てる}と名を改める。1979年観世流梅若六郎家当主を継承。1988年五十六世梅若六郎を襲名する。海外公演や新作能の演出と上演、廃絶曲の復曲、異分野との共演にも積極的に携わる。2008年梅若家中興の祖である玄祥と舞台名を改名。2018年2月16日、亡き父に三世実の名を追贈し、四世実を襲名した。現代を代表するシテ方の一人として知られ、数多くの賞を受賞している。2007年日本芸術院会員、2014年重要無形文化財保持者認定（人間国宝）。

香雪美術館 企画展

「幽玄の世界への誘い^{いざな}

梅若六郎家所蔵の能面と能装束」

能は、謡と囃子^{うたい はやし}を伴奏に、演者が能面をつけて演じ、極めて簡素な所作で物語が展開されます。その歴史は平安時代に日本各地で発生した猿楽^{さる がく}にさかのぼり、鎌倉時代に、より完成度の高い歌と舞^{うた まい}の劇へと進化して、室町時代初期に足利義満の庇護のもと、観阿弥、世阿弥父子によって大成されたといわれています。生者と亡霊や精霊が語り合う深遠な世界観と様式美は、その後の日本美術の発展にさまざまな影響を与え、現代に伝わる伝統芸能として、2008年ユネスコ無形文化遺産に登録されました。

本展覧会は、シテ方能楽師の梅若六郎玄祥師が、2018年に曾祖父の名跡を継ぐ四世梅若実襲名を機に企画されました。同師の全面的協力を得て、猿楽発祥の地のひとつ、丹波に祖を持ち、600年を越える芸能の系譜を伝える名門梅若六郎家の貴重な面や装束約70点を紹介します。



※期間中、能装束は展示替があります。

会 期	2019年2月26日(火)～5月6日(月・振替休日) 月曜休館(ただし、4/29、5/6は開館) 前期:2月26日(火)～3月31日(日) 後期:4月2日(火)～5月6日(月・振替休日)
開館時間	午前10時～午後5時(入館は午後4時30分まで)
料 金	一般800(600)円、高大生500(400)円、中学生以下無料 *()内は20名以上の団体料金
主 催	公益財団法人香雪美術館、朝日新聞社
特別協力	公益財団法人梅若会、梅若実後援会、ダンスウエスト
協 力	学校法人行吉学園 神戸女子大学古典芸能研究センター



みどころ

梅若六郎家の能面を一堂に展示

シテ方観世流の名門である梅若六郎家には代々が舞台上で実際に使用してきた能面が伝来しています。本展覧会ではその中より選りすぐりの30面を紹介します。

「逆髪」^{さか がみ} ㊦は『蟬丸』^{せみ まる}に登場する狂気の皇女・逆髪に用いられる面です。内在する妖艶さと、比類のない美しさが魅力的です。江戸時代初期に活躍した面打師・大宮大和実盛^{おお みや やまと さね もり}により制作されました。

重要美術品「若女」^{わか おんな} ㊧は女の奥深さを表現した名品で、世阿弥が名工・河内に制作させたもののひとつです。「真蛇」^{しん じゃ} ㊨は『道明寺』^{どう みょう じ}の赤頭や復曲能『大般若』の深沙大王として使用されるきわめて造作の大きな面です。「大癡見」^{おお べみ し} ㊩は天狗を表現したものです。口に力を込めて一文字にくいしばる形を「べしむ」といい、全てを威嚇しようとする鬼神の面です。



㊦「逆髪」
(江戸時代、17世紀)



㊧ 重要美術品「若女」(江戸時代、17世紀)



㊨「真蛇」(室町時代、15～16世紀)



㊩「大癡見」(室町時代、16世紀)



㊦「邯鄲男」(江戸時代、17世紀)



㊦「銀地薄蝶ノ縫箔」(桃山時代～江戸時代前期、16～17世紀) 後期：4月2日～5月6日

のう しょう ぞく かずら おび こし おび

能装束や蔓帯、腰帯、小道具などにより能の魅力を紹介

能の舞台では豪華絢爛な装束が使用されます。「銀地薄蝶ノ縫箔」㊦は、全面を銀箔で覆い蝶や薄を刺繍で表現した、しっとりとした美しさが映える作品です。地が一松文様のように紅白の段だらに織られた裂を仕立て、下地に金で罫目が施されている「紅白段地罫目秋草花丸唐織」㊧は、色の使い方が巧みで、華やかな作品です。この他、面を付ける際に髪を押さえて鉢巻のように頭に巻き、後頭部で結ぶ細い蔓帯（「青海波水玉模様髪帯」㊨、「胴箔地紅葉模様髪帯」㊩、「胴箔地紋尽模様髪帯」㊪）や、装束を腰の部分で絞める腰帯（「胴箔地牡丹折枝模様腰帯」㊫、「花色地干綱千鳥模様腰帯」㊬）、小道具の扇（「修羅扇」㊭、「翁扇」㊮）などを展示します。



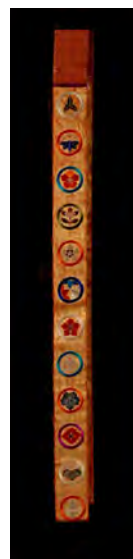
㊧「紅白段地罫目秋草花丸唐織」(江戸時代、17～19世紀) 前期：2月26日～3月31日



㊨「青海波水玉模様髪帯」



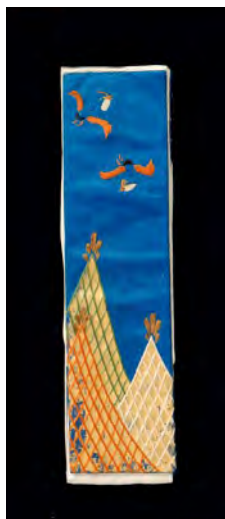
㊩「胴箔地紅葉模様髪帯」



㊪「胴箔地紋尽模様髪帯」



㊦「銅箔地牡丹折枝模様腰帶」



㊧「花色地干綱千鳥模様腰帶」



㊨「修羅扇」



㊩「翁扇」

主な出展作品

番号	指定	作者・生産地	作品名	時代	展示期間
A			さかがみ 逆髪	江戸時代、17世紀	全期間
B	重要美術品		わかおんな 若女	江戸時代、17世紀	全期間
C			しんじや 真蛇	室町時代、15～16世紀	全期間
D			おおべみし 大癪見	室町時代、16世紀	全期間
E			かんたんおとこ 邯鄲男	江戸時代、17世紀	全期間
F			ぎんじすきまのうのぬいほく 銀地薄蝶ノ縫箔	桃山時代～江戸時代前期、16～17世紀	後期：4月2日～5月6日
G			こうはくだんじかごめあまきさほなまるからおり 紅白段地簞目秋草花丸唐織	江戸時代、17～19世紀	前期：2月26日～3月31日
H			さいがいほみずたまようかざらおび 青海波水玉模様髪帯		全期間
I			どうはくじもみじもようかざらおび 胴箔地紅葉模様髪帯		全期間
J			どうはくじもんづくしもようかざらおび 胴箔地紋尽模様髪帯		全期間
K			どうはくじぼたんおりえだもようこしおび 胴箔地牡丹折枝模様腰帯		全期間
L			はないろじほしあみちどりもようこしおび 花色地干網千鳥模様腰帯		全期間
M			しゅうらおうぎ 修羅扇		全期間
N			おきなおうぎ 翁扇		全期間

※記号欄(A～N)は貸出写真記号

——— 報道関係のお問い合わせ ———

「香雪美術館」梅若展係

TEL 078-841-0652 FAX 078-841-1402

〒658-0048 神戸市東灘区御影郡家2丁目12-1

FAX: 078-841-1402

取材・写真使用申込書



(西暦) 年 月 日

取材について

取 材 者	フリガナ	フリガナ
	会社名	担当者名(連絡者)
	住所 〒	TEL
		FAX
	E-mail	取材人数 名
取材希望日時	(西暦) 年 月 日 時 分 ~ 時 分	
媒 体	種別 ☐ テレビ ☐ ラジオ ☐ 新聞 ☐ 雑誌 ☐ その他()	
	番組名・コーナー名	
放送・発行日等	(西暦) 年 月 日 時 分 ~ 時 分	
取材の範囲	☐ する (撮影機材 ☐ スチール ☐ ENG ☐ DVC) ☐ しない	
備 考 特に取材したい場所・内容等		

写真使用について

プレス用写真一覧をご確認の上、希望画像番号をご明記ください

作 品 画 像	ロ ゴ 画 像
---------	---------

注 意 事 項	企画書など概要がわかる書類の提出をお願いいたします。 原稿および記事については貴メディアへ御掲載前に香雪美術館広報担当宛に確認のためお送り くださいますようお願いいたします。掲載後は掲載誌等の送付をお願いしております。
申 込 先	「香雪美術館」 梅若展係 担当：落合 (おちあい) TEL 078-841-0652 FAX 078-841-1402 〒658-0048 神戸市東灘区御影郡家2丁目-12-1